

令和5年度こども家庭庁子ども・子育て支援調査研究事業

幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」
等に関する調査研究

幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項に関する

先駆的取り組みの実践例集

令和6年3月

一般社団法人 保育教諭養成課程研究会

目次

I. 事例集の作成にあたって	1
1. 事例集の作成意図	1
2. 事例集作成にあたっての組織体制と事例の収集方法	1
II. 実践を捉える視点	2
1. 集団生活の経験年数が異なる園児に配慮した0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	3
2. 一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮した教育及び保育の内容の工夫	5
3. 環境を通して行う教育及び保育	7
4. 指導計画作成上の特に配慮すべき事項	10
5. 幼保連携型認定子ども園における養護、園児の健康及び安全	11
6. 保護者に対する子育ての支援	13
III. 調査協力園の概要	14
1. 台東区立石浜橋場子ども園	15
2. 認定子ども園こどもむら栗橋さくら幼稚園	16
3. 認定子ども園若草幼稚園	17
4. むさし子ども園	18
5. さざんか子ども園	19
6. 佐賀女子短期大学付属ふたば子ども園	20
7. 認定子ども園東松山子ども園	21
8. 認定子ども園まどか幼稚園	22
9. ゆうゆうのもり幼保園	23
10. 認定子ども園札幌ゆたか幼稚園	24
11. 幼保連携型認定子ども園カナン保育園	25
12. さくら認定子ども園	26
13. はまようちえん	27
14. 新宿区立四谷子ども園	28
15. まんのう町立仲南子ども園	29
16. 愛泉子ども園	30
17. 美郷町立六郷わくわく園	31
18. 幼保連携型認定子ども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園	32
19. 幼保連携型認定子ども園赤城育心子ども園	33
20. 幼保連携型認定子ども園かまいし子ども園	34
21. 泉の台幼稚園	35
22. 石動青葉保育園	36
23. 認定子ども園明照保育園	37
24. 認定子ども園せんだい幼稚園	38

IV. 実践事例	39
実践事例の読み方	39
1. 集団生活の経験年数が異なる園児に配慮した0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	40
事例1 集団生活の経験年数が異なる園児に関する情報の共有や教職員の連携	41
事例2 集団生活の経験年数が異なる園児に関する取組の工夫	43
事例3 集団生活の経験年数が異なる3歳児の園児への配慮	45
事例4 集団生活の経験年数が異なる園児に関する情報の共有や教職員の連携	47
事例5 入園前のこどもの生活や家庭環境等の理解に関する取り組みに対する工夫	49
事例6 集団生活の経験年数が異なる園児に関する情報の共有とカリキュラム・マネジメント	51
事例7 集団生活の経験年数が異なる園児に関する情報の共有や教職員の連携	53
事例8 集団生活の経験年数が異なる園児に関する教職員間の情報共有や連携と、保護者への情報提供や連携	55
2. 一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮した教育及び保育の内容の工夫	57
事例9 入園前の家庭での状況についての調査シート、保護者とのコミュニケーションを通じた把握	58
事例10 多様な研修の形態（園内研修、自主研修、短大と連携した研修）	60
事例11 園内研修の充実で同僚性を高める	62
事例12 一人一人の生活リズムに応じた日課と経験差に応じた援助の配慮	64
事例13 家庭を巻き込むトイレトレーニングの実践	66
事例14 科学的知見に基づく午睡時の光環境、家庭生活との連続性を保ち、生活自立を育む午睡環境	68
事例15 多様なトイレ環境で年齢や発達に応じて対応する	70
事例16 個別の日課に対応した教職員の一日のシフト表と複数担任の異年齢クラスの人員配置	72
事例17 家庭からの相談に対応した午睡時間帯及び保育者の配置の変更	74
事例18 生活リズムについての家庭を巻き込む支援	76
事例19 保護者と共に子育てを楽しむ中での生活習慣の自立	78
事例20 架け橋期におけるトイレ環境への配慮	80
3. 環境を通して行う教育及び保育	82
事例21 午前と午後の保育をつなぐ教職員連携による情報共有	83
事例22 園全体で共有される環境とこども理解	85
事例23 地域の子育て家庭を包含した環境の中での質の高い教育・保育	87
事例24 こども一人一人の丁寧な理解に基づく環境づくり	89
事例25 異年齢保育の活用と徹底したこども理解に基づく保育の展開	91
4. 指導計画作成上の特に配慮すべき事項	93
事例26 面接票を用いた入園面接と教職員間の連携	94
事例27 子育て支援センター利用者の入園前後の情報共有	96
事例28 月の個別指導計画作成のための実態把握と話し合い	98
事例29 個人の活動の尊重とこども相互の関わりを生む活動	100
事例30 「保育を見合う会」を通じたこども理解	102
事例31 ホワイトボードを使った異年齢児の交流計画	104
事例32 教育課程に係る教育時間の内容を踏まえた延長保育のクラス分け	106

23. 認定こども園明照保育園

園名	認定こども園明照保育園			運営主体	社会福祉法人 明照保育園		
所在地	愛知県	住所	〒441-8093 愛知県豊橋市牟呂中村町 6-1				
幼保連携型認定こども園設置年	2015年	設置経緯	保育所からの移行				
URL	https://www.tcp-ip.or.jp/~meisyou/						
認可定員							
	0歳児	1歳児	2歳児	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
1号認定					5	5	5
2号認定					51	52	52
3号認定	30	35	50				
合計	30	35	50		56	57	57
クラス編成	0歳児1クラス 1歳児2クラス 2歳児2クラス 3歳児2クラス 4歳児2クラス 5歳児2クラス						
園の特徴	<p>『幼保連携型認定こども園明照保育園（以下、明照保育園）』は愛知県の東端に位置する人口37万人都市である豊橋市に所在しています。園の歴史は古く、令和6年で開所70周年の節目を迎えます。明照保育園の前身は、戦前から開設されていた普仙寺農繁期託児所で、「ドナタデモオイデクダサイ」の看板を掲げ、地域に開かれた保育所として運営されてきました。</p> <p>園の全敷地面積は約1600㎡と全国的に見ても広いわけではありませんが、3階建ての園舎とその屋上を活用しながら、にぎやかに日々の保育を行っています。0歳児から5歳児までの273名のこどもに加え、園では学童保育も行っているため、放課後や長期休みには100名程度の小学生も園で一緒に過ごしています。空き時間には小学生も保育室に入り保育教諭と一緒に幼児たちと関わる姿も多く見られます。また、保育教諭以外にも看護師や体育教諭、保育カウンセラーと保育以外の専門性をもった教職員も勤務しており、多職種連携を図りながら保育を行っています。これらの教職員が連携しながら入園前の地域の子育て家庭を対象とした子育て広場やこども食堂等、こどもを中心とした幅広い子育て・子育て支援を実践しています。</p> <p>開設当時の基本理念を大切に、入園前から卒園後もこどもも保護者もつながりを持ちつつ、地域に開かれたこども園としてこどもから大人までたくさんの人が関わりながら園が成り立っているところが明照保育園の特徴です。</p>						



事例40 多職種連携を生かした多様なチャンネルを通じた子育て支援

キーワード	意見の集約・保護者へのケアワーク・保護者へのソーシャルワーク・多様な交流方法		
視点番号	6-3	6-4	6-5 6-6
実践の視点	フィードバックを通じた改善・専門性をもとにした支援・保護者の参加意識・ICTを含む多様なコミュニケーション		
園名	認定こども園明照保育園	園番号	23

背景

明照保育園が所在する愛知県豊橋市は人口 37 万人の地方都市です。園の近隣には住宅地だけでなく学校や病院、商業施設等様々な施設があり、保護者も多様な職業に就いている方が多くいます。以前より卒園児の保護者が保育補佐として園内で活躍してきたことも多くありました。また現在では、保育教諭のほかに看護師 5 名（うち助産師資格取得者 2 名、保健師資格取得者 1 名）、体育教諭 1 名と保育以外の専門性をもった教職員が常勤勤務しており、多職種連携を図りながら保育を行っています。加えて、平成 30 年からは週に一日臨床心理士が保育カウンセラーとして園に訪問し、保護者相談や保育教諭に対する相談支援を行っています。

実践事例

多様な専門性をもつ教職員が園内にいることで、保育教諭に対する相談だけでなく、保護者が自分のニーズに合わせて相談先を選んで相談をすることができています。さらに、場合によっては慣れ親しんだ保育教諭を窓口とし、保育教諭と一緒に保育カウンセラー等に相談に行くこともあるようです。このように園内で多職種連携がスムーズに行われていることで、保育の幅が広がるだけでなく子育て支援の幅も広げることができていると考えられます。また、園内研修においても保育カウンセラーによる相談支援における話しの聴き方のコツをテーマに研修を行ったり、教職員同士でロールプレイを通して保護者からの相談の受け止め方について研鑽をすることもできています。

園で行われている子育て支援は相談支援だけでなく、1 か月に一度“親が親であることを忘れられる場所”として「おやくる」というイベントを開催しています（図 1）。そこでは、保護者が集まりみんなでスポーツやボードゲーム、ヨガやクッキングをして楽しんでいます。これらの活動は普段子どもたちが園内で行っている活動ともつながっており、教職員がそれぞれ自分の趣味や得意分野を生かして講師となって活動を設定しています。また、保護者が保育を観察する保育参観の機会も「保育参加」として位置付けて、子どもと一緒にマラソンや工作をしたりと、保護者も活動に参加することで子どもと一緒に楽しさや達成感を味わえる機会としています（図 2）。これ



図 1 「おやくる」でのヨガ活動の様子



図 2 保護者も一緒に保育参加（マラソン）

らのことは相談支援といった個別の保護者支援というだけではない、全体に対するより予防的な保護者支援としても位置付けて行われています。

子育ての支援においても ICT を含む様々なチャンネルを通じて発信・やりとりを行っています。先に述べたようなイベントや行事、普段の保育では、保護者の感想や意見等についてのフィードバックを受けて取り入れていくことも大切にしています。具体的には、毎月 1 週間行っている早起きカレンダーの裏面（図 3）を利用し、最近の行事や保育について、また家庭でのこどもの様子について気になること等なんでも共有できるスペースを用意し活用してもらっています。ICT の活用では、保育カウンセラー等との相談の希望はもちろん保育教諭を通じて予約を取ることとしてもしていますが、相談内容やニーズによっては連絡アプリを通じて個別に予約を取ることにも可能なようにしています。また自分のこどもに関する学年通信だけ配信するのではなく、全学年の通信をデータで配信することで、保護者の中で学年のつながりや見通しをもってもらいやすくなる工夫も行っています。

これらの子育て支援に加えて令和 5 年度からは、在園児を含め地域の発達支援ニーズの高い家庭に対する支援の場として、園に併設した児童発達支援事業所「みつけ」を開所し、より子育て支援のチャンネルを広げていこうとしています。

解説・工夫している点

園内に様々な専門性を持つ教職員がいることを生かして、保育教諭の専門性に加えて多職種連携によるより幅の広い視点を利かして子育て支援をおこなうことができています。また、保護者の意見や感想等を、ICT を含む様々なチャンネルを通じて受け取ることで、フィードバックを生かして今の支援や実践をよりブラッシュアップすることができる仕組みを作ることができていると考えられます。これらの園全体での連携や発信・受信の仕組みづくりは、“保護者も保育教諭も誰も一人で抱え込まない”子育て支援につながると考えられます。このような仕組みがあることで、保護者も保育教諭もより余裕をもってこどもと関わる事ができる土台となると思われま

す。また、多職種連携において大切なこととして、他職種の教職員も保育教諭と同じように普段の保育や行事に携わり、保護者や保育教諭と顔を合わせておくことで、相談に対するハードルを低くすることにつながっていると思われま

す。子育て支援全体を通して、多職種や保護者のつながりを大切にする横のつながりと、学年をまたいだ縦のつながりを大切にして子育て支援を行うことができていていると思われま

さあ、カレンダーチェックをして家族みんなで健康に!
 新しい年を迎えました。春ではお正月の遊びや戸外遊びなど友だちや先生と盛り上げています。空気の乾燥や寒さ厳しい今の時期、体調をくずさないようにしたいものですね。うがい・手洗い・生活リズムを大切に、強い体づくりを始めましょう。風邪予防に効果的な効果があるそうです!
 毎月のうち1週間を「はやおきはやねカレンダー」にチェックしていきましょう。目標は、できるだけ生活リズムを整えることの中で家庭で決めてください。夜寝る時間、起きる時間を決めたり、朝ごはんの準備について決めたりしてください。生活リズムがとれている方は、片付けやあいさつ、お手伝いなど生活や成長への目標も立ててみましょう。

伝えて下さい、最近のこどもの様子(おやくる)
 園内研修や行事・イベントにご参加ください!

保育参加はいかがでしたか?(おやくる)
 その場、おうちでも思い出した様子があったら嬉しいです!

図 3 保護者からのフィードバックの活用

事例43 地域の子育て家庭に求められるこども園としての役割を生かしたつながりづくり

キーワード			
視点番号	6-7・6-8		
実践の視点	地域の現状を把握した子育ての支援・他機関との連携		
園名	認定こども園明照保育園	園番号	23

背景

園の概要で述べたように、「ドナタデモオコシクダサイ」を開所当時より基本理念として掲げ、地域に開かれた保育所としてこれまで多岐にわたる事業を展開・発展させてきました。その対象は在園児だけでなく地域の子育て家庭や今後の子育てを担う次世代に対しても幅広く間口を広げて行われてきました。これらの活動の背景には、地域の中でこどもや子育て家庭を孤立させず、今あるものを生かして地域を支えていくといった「福祉」の原点への意識が常にあります。このような基本方針のもと、園のリソースである多職種教職員や地域資源を活用して幅広く子育て家庭への支援を行っています。

実践事例

(1) 地域の未入園家庭を対象とした子育て広場「つばめっ子」

月に数回地域の未入園家庭を対象に園庭開放・親子ひろばを開催しています。園への入園希望の家庭だけでなく子育て中の地域の保護者やこれから子育てを考えている方を園に来てもらい、1時間程度の間、園庭や遊戯室で親子で自由に遊んだり、サークルタイムといってこどもを見ながら保護者同士で気軽に交流をしてもらったりする時間を用意しています(図1)。時には在園児と一緒に遊ぶこともあります。また、並行して育児や産前産後の不安について園の保育教諭や看護師が相談を受けることもあります。利用については基本的に事前登録制で、アプリを通して発信された案内を確認して、アプリや電話を通して保護者から申し込みを受け付けています。「つばめっ子」を運営する保育教諭の多くは短時間勤務の保育教諭で構成されています。



図1 親子ひろばの様子

(2) こども食堂「おとなりさん」

令和2年度より園内にて毎週木曜日にこども食堂「おとなりさん」を開催しています(図2)。利用者は地域の経済的困窮家庭だけを対象としておらず、在園児の家庭も利用することが可能で、保護者の負担軽減や食育も目的として実施されています。利用したい方は事前予約をし、予約人数に応じて園の調理師が食事を用意します。利用料は支援を必要とするこどもとその友達は無料、保護者は300円とし、在園児家庭はこども250円、保護者500円とそれぞれ設定されており、利用者の事情への配慮からその場での支払いは行わず、後日保育料等と合わせて支払うようにされています。利用者は大人とこどもを合わせて70名近くなることもあり、にぎやかな雰囲気の中でみんなで食事をしています。



図2 おとなりさんの様子

「おとなりさん」の基本方針として、困窮家庭支援のみでなく食育や楽しい食事の時間の提供を大

切にしており、週に一度でも保護者も余裕のもてる食事の場の提供できることを重視しています。「おとなりさん」の中では、異年齢のこども同士でテーブルを囲んで楽しそうに食べたり、保護者同士で楽しくおしゃべりをしながら食事をしたりする様子がよく見られます。またその輪の中に保育教諭や保育カウンセラーも入って一緒に食事をすることもあり、その際には普段のこどもの様子や保護者の思い等をリラックスした雰囲気の中で語り合うことができています。

地域の保健師や役所が気になっている地域の要支援家庭に対して「おとなりさん」を紹介して、利用につながっているケースもこれまでありました。また、地域の会社から食材や食品の提供をしてもらえることもあり、地域の人が利用する側だけでなく提供する側も担いつつ、運営がされています。

(3) 地域の学校との連携

明照保育園は学童保育「児童クラブ」を併設しており、卒園後も多くのこどもが児童クラブを利用して放課後を園で過ごしています。それに伴い、保護者とのつながりも卒園で途切れることなく、就学後の学校での様子や困りごと等をこれまで慣れ親しんだ関係のできている保育教諭に相談することができます。また、児童クラブだけでなく月に一度「なかよし保育」という地域の小学生たちが園に来て在園児と一緒に遊ぶイベントも開催しています。このように、就学後も園との関係が切れることなく、こどもも保護者も園とのつながりを持ち続けていくことができます。



図3 地域の中学生と園児の交流

地域の学校とのつながりは他にもあり、園がフリースクールの登録をしていることで、不登校傾向のある児童生徒が適応指導教室等から園に遊びに来て、在園児と一緒に日中を過ごすこともあります。こどもたちと一緒に過ごす小中学生は、最初は戸惑いつつも自然とこどもから頼りにされて、こどもを手助けしていく中でだんだんと表情が柔らかくなっていく様子も見られるようです(図3)。また、地域の高校の野球部がこどもとの交流として野球を教えに来てくれたり、地域の保育士養成校にこどもが訪問して学生と交流をしたりと、地域の各種学校との連携の中で切れ目のないつながりを作ろうとしています。

解説・工夫している点

開所当時から基本理念である「ドナタデモオコシクダサイ」という考えをもとに、地域に開かれた園として地域社会の様々な資源をつなぎ合わせる機能を果たすことができていると考えられます。特に、在園児の保護者だけでなく地域の子育て家庭や次世代の子育て家庭も視野に入れた子育て支援を行う実践を展開することができています。これらの活動の背景にはほかにはない特別なものを別途用意しているのではなく、園や地域に既にあるリソースを生かして実践に取り組むことができおり、まさに福祉の原点回帰的なこども園の機能の発見であると考えられます。

子育て支援という観点では、地域の中でこれだけ長い期間関わりをもつことができ、かつこどもの理解をもって接してもらえる施設があるということは、保護者にとっても社会の中での孤立を防ぐことに寄与することができていると推測されます。明照保育園で行われている一連の取組は、地域社会の中で必要とされる存在としてのこども園という役割を、実践を通して提言することができていると考えられます。